

～若者が夢を描ける新時代農業への挑戦～

1 農業・農村の概要（現状・課題）

(1) 地域の現状と課題

【地域の地勢】

下都賀地域は県南部に位置し、北西部の三峰山(605m)を含む中山間地域と東に鬼怒川、南に渡良瀬川に囲まれています。地域を流れる田川、思川、巴波川、永野川などの流域には、水利に富んだ広大で肥沃な水田地帯が広がり、また東部の台地には、南北に続く畑地帯を形成しています。

【現状と課題】

耕地面積の75%を占め、圃場整備が進んだ水田地帯では、県内最大の二毛作地帯として県産麦の4割以上が生産され、米麦を中心とした土地利用型農業が営まれるとともに、いちごやトマトに代表される施設園芸や和牛肥育を中心とした畜産経営が展開されています。また、畑地帯には、レタスやほうれんそう、特産のかんぴょうなどが多く生産され、園芸作物の生産が盛んな県内を代表する園芸地域です。

しかし、県内一を誇った販売農家数は、高齢化などから減少が著しく、主力品目であるいちご、ぶどうをはじめ多くの品目の作付面積が減少し、産地の維持が困難になりつつあります。また、圃場整備や多面的機能支払いの共同活動は多くの地域で取り組まれているものの、担い手への農地集積は進んでいないため、地域の話合いによる将来構想を作成し、ICTの活用による効率的な経営体を育成するなど、収益性の高い魅力ある経営を実現していく必要があります。

(2) 地域農業の推進方向

- 地域内外からの新規就農・参入者の確保に向けた体制構築
- 地域の強みである園芸産地の振興、土地利用型経営体の育成による水田農業の展開
- 収益性の高い経営体と多面的機能支払いなどの共同活動の連携による魅力的な地域づくり

【地域の現状データ】

項目	単位	H22	H27	H27/H22 (%)	項目	単位	H27	R1	R1/H27 (%)
総人口	人	453,286	450,645	99.4	農地の集積率	%	44.3	53.2 (H30)	120.1
総世帯数	戸	163,170	169,812	104.1	集落営農数	組織	79	86	108.9
農家数	戸	13,928	11,972	86.0	うち法人化数	組織	9	14	155.6
販売農家数	戸	10,244	8,377	81.8	園芸産出額	千万円	3,005	2,739	91.1
うち販売額 1千万円以上	戸	924	829	89.7	産出額に占める割合	%	58.0	51.7	89.1
割合	%	9.0	9.9	110	いちご栽培面積	ha	147	132	90.0
露地野菜販売 1千万円以上	戸	25(H27)	46(R1)	184	トマト長期どり栽培面積	ha	23	28.3	123
					トマト1ha以上経営体		5(H28)	12	240.0
うち10ha以上	戸	101	132	130.7	新規需要米作付面積	ha	1,580	2,696	170.6
					麦作付面積	ha	5,358	5,358	100.0
割合	%	1.0	1.6	160	水田利用率	%	86.2 (H29)	92.6	107.4
耕地面積	ha	25,820	25,290	97.9	多面的機能面積カバー率	%	54.9	61.4	111.8
うち田	ha	19,552	19,282	98.6	水田整備率	%	77.6	79.2	102.1
うち畑	ha	6,281	6,022	95.9	直売所販売額	億円	28	32	114.3

2 地域戦略

戦略名：県内園芸をリードする園芸産地の振興

(1) 対応方向

- ・いちご・トマト等の施設園芸を中心に今後も産地を維持、発展させるために、地域内外から継続的に新規就農・参入者を確保する体制を構築します。
- ・施設園芸は、所得の確保に向け1戸あたりの出荷量増加が必要であることから、市場性のある多収性品種の導入、ICT機器等を活用した精度の高い栽培管理の実現に取り組み、一層の単収向上を図ります。
- ・土地利用型園芸の推進により、露地野菜の作付拡大が進みつつある。今後は一層の産地強化と周辺地域への波及を図るとともに、機械化体系の導入による規模拡大を進める他、販路の確保のため契約取引の拡大を図ります。
- ・果樹は、産地の競争力を高めるため消費者の嗜好に応じた品種の導入と早期の成園化、作業の省力化の取組を進めます。

(2) 主な目標

項目	現状 (R1)	目標 (R7)
いちごの新規就農者数	45名/5年間	60名/5年間
施設園芸(いちご、トマト)のスマート農業技術の導入割合(件数)	25.3%	40%
食品企業との連携を目指す産地育成	5産地	15産地
農福連携の取組数	30件	40件
基盤整備と連動した園芸の作付推進	5地区	13地区

(3) 取組方策

(人づくり)

○市町・JAの独自就農支援体制の構築と強化

- ・新たな担い手育成を図る技術力向上研修の充実
- ・空き農地、空きハウスのリスト化

○園芸経営を志向する多様な担い手の確保・育成

- ・雇用就農や新規参入研修生を受け入れる企業的经营体の育成(いちご)
- ・優良経営体からの独立(のれん分け)に向けた支援体制の構築
- ・農業大学校いちご学科卒業生等、新規就農者の受入体制強化

○農業への理解促進と「あこがれの職業、農業！」の推進

- ・SNS等を活用した情報発信

(ものづくり)

○ICTなど新技術活用による園芸生産の高度化

- ・施設園芸の環境制御装置導入及び高度利用による品質・収量向上(いちご、トマト)
- ・収穫調整作業の省力化及び単収向上技術導入

○いちごの品種構成の適正化と育苗委託システムの構築による産地維持



次世代トマト生産施設

○食品企業等と連携した加工・業務向け品目の生産と産地の育成

- ・企業や中間業者と連携した土地利用型園芸産地化、および関連産業との連携拡大による土地利用型園芸下都賀モデルの推進



大型機械による収穫（じゃがいも）

(地域・基盤づくり)

○栃木県型地下かんがいシステム等の創意工夫による水田を活用した土地利用型園芸の安定生産推進

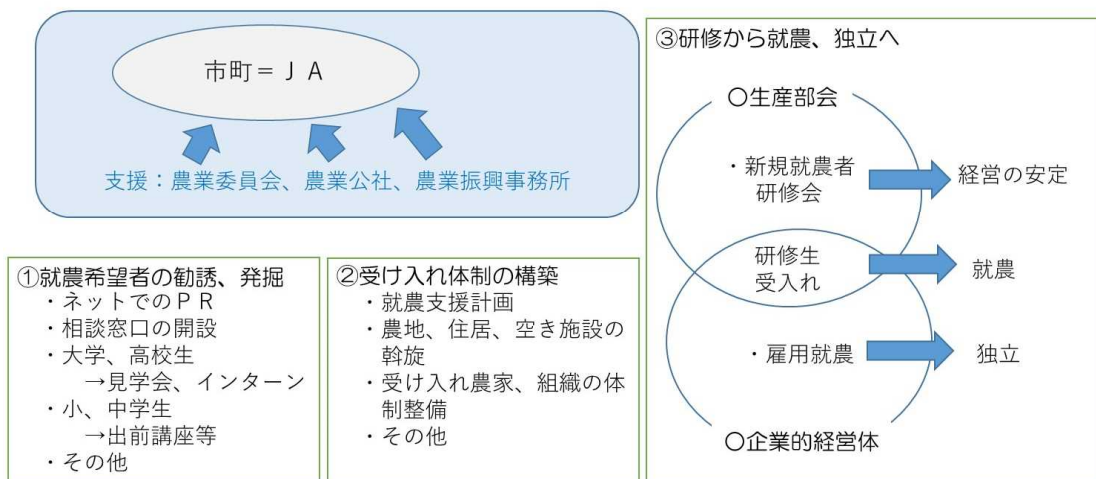
○ぶどうやかんぴょうなど地域特産物の産地維持発展に向けた生産体制の強化、情報発信及び交流促進

○他分野との連携による地域づくり

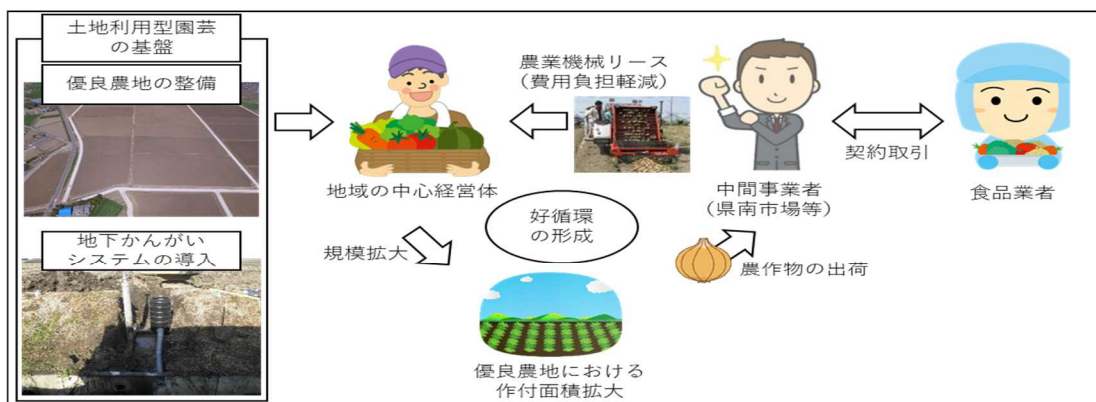
- ・農業者と福祉施設の連携によるユニバーサル農業の推進
- ・農村における関係人口の創出・拡大に向けた取組の推進

(4) 推進体制と役割分担

各市町ごとの就農支援体制づくり（イメージ）



土地利用型園芸下都賀モデルの推進イメージ



J A ・ 土地改良区 ・ 市町 ・ 農業振興事務所
 支援策の検討及び共有 ほか整備計画の立案 栽培技術の指導 補助事業の推進

2 地域戦略

戦略名：土地利用型経営体による持続的水田農業の展開

(1) 対応方向

- ・メガファームをはじめ家族農業に至るまでの地域を担う土地利用型経営体の規模拡大やスマート農業による生産性の向上を推進するとともに、二毛作等の水田フル活用による経営の高度化・複合化に取り組み、持続性の高い魅力（稼げる・軽労・効率的・カッコイイ・感動）ある水田農業を展開します。
- ・人・農地プランを踏まえた集落・地域の徹底的な話し合いを促進し、地域の中心となる土地利用型経営体（法人、集落営農、個人）が活躍するための生産基盤の整備や農地の集積・集約等に対する合意形成を図り、競争力のある持続可能な地域農業の実現を目指します。

(2) 主な目標

項目	現状 (R1)	目標 (R7)
広域営農を展開する組織数	1組織	8組織
土地利用型経営体 (10ha 以上) による集積面積	7, 055ha	8, 300ha
水田における土地利用型作物の作付面積 (戦略作物+ハトムギ+露地野菜)	9, 144ha	9, 613ha
法人メガファーム数(1億円プレイヤー)	7法人	10法人
圃場整備実施地区におけるスマート農業実践面積	5ha	140ha
50a以上の大区画整備率	16.8%	18.3%
地域の担い手育成に資する地域営農ビジョン策定組織数	3	35
多面的機能支払新規取組地区 ※()内は全取組地区数	— (93地区)	5地区 (98地区)

(3) 取組方策

(人づくり)

○人・農地プラン、多面的機能支払の取組推進と地域農業担い手の確保

- ・将来の担い手の不足する地域の明確化と、集落営農組織の再編、JA出資型法人等の体制整備
- ・多面的機能支払、人・農地プランの話し合い、土地利用型園芸産地づくりの一体推進
- ・担い手と出し手のマッチング促進に向けた最適化推進委員のスキルアップ



地域の将来を明確化する話し合い

○稼げる農業を実践する企業的経営体、メガファーム (1億円プレイヤー) の育成と波及推進

- ・規模や発展段階に応じた経営指導による大規模化と農業のビジネス化支援
- ・農業団体・組織と人材派遣会社等との連携による労働力確保の推進

○経営力向上による稼げる家族農業の推進

- ・土地利用型複合家族経営モデル（経営耕地面積 10ha 以上）の育成

○農業への理解促進と「あこがれの職業、農業！」の推進

- ・学校給食での地元土地利用型農産物の利用推進
- ・SNS等を活用した情報発信

(ものづくり)

○二毛作等による土地利用型作物の作付拡大

- ・二条大麦やハトムギなど特色ある土地利用型作物での二毛作推進
- ・加工業務用露地野菜、デントコーン等の水田フル活用推進による作付拡大

○ICT等を活用したスマート農業の普及・定着

- ・効率的・カッコイイ・感動を実践する農業の推進

(地域・基盤づくり)

○スマート農業導入に対応出来る圃場整備と農業水利施設機能保全による農業用水の安定供給

- ・労力節減、効率化に資する自動給水栓、GPS機械や農地管理システムの導入
- ・パイプライン、低圧式用水におけるICT活用自動給水栓の導入や畦畔除去による大区画化等担い手の水管理労力省力化の推進

○多様な人々が住み続けられる農村づくり

- ・多面的機能支払など共同活動による農村コミュニティの維持再生と農村景観保全
- ・集落を越えた広域営農システムや大規模経営体ネットワークの構築
- ・防災機能を有する農地や農業水利施設の整備



圃場整備地区での無人田植機の実演

(4) 推進体制と役割分担

